

第 8 期

札幌市廃棄物減量等推進審議会（第 4 回）

議 事 録

日 時：平成 28 年 6 月 30 日（木）午前 10 時開会
場 所：北海道建設会館 9 階 大会議室

１．開　　会

○福士会長　それでは、定刻になりましたので、ただいまから、第８期札幌市廃棄物減量等推進審議会の第４回本会議を開催いたします。

本日は、ご多忙の中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の審議会は、１１時３０分ころを終了予定としておりますので、ご協力をお願いいたします。

まず、事務局から、本日の出席状況と配付資料の確認をお願いいたします。

○事務局（高橋企画係長）　事務局の循環型社会推進課の高橋でございます。

本日は、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

本日は、委員１４名中１２名にご出席いただいております。よって、出席委員が過半数を超えておりますので、札幌市廃棄物の減量及び処理に関する条例施行規則第５条第１項の規定に基づき、この会議が成立していることをご報告いたします。

なお、木澤委員と渡辺委員からは、所用により、ご欠席という連絡をいただいております。

次に、本日の資料の確認をさせていただきます。

お手元にＡ４判の式次第１枚と、Ａ３判横の資料１、Ａ４判横の資料２、また、参考資料としてＡ４判の資料、以上の４点をお配りしておりますが、お手元にございますか。

資料がない方につきましては、今、事務局からお渡しいたします。ほかの皆様は大丈夫ですか。

それでは、福士会長、進行をよろしくお願いいたします。

２．議　　事

○福士会長　前回の審議会では、現行計画の進捗状況や、今後、想定されるごみ量等の動向に関して、皆様から貴重なご意見、ご質問を頂戴いたしました。今回は、本会議の第４回目ですが、次期計画の方向性を検討する際の重点テーマについてご議論いただければと思っております。

本日は、これまでの会議の結果を踏まえて、事務局において幾つかテーマ案を整理していただいておりますので、このテーマ案を中心にご議論いただければと考えております。

なお、重点テーマにつきましては、２つくらいに絞った上で、９月から１１月にかけて開催予定のグループ会議において議論していただく予定となっております。

重点テーマとグループ分けにつきましては、来月開催予定の第５回の本会議において決定させていただく予定になっております。

それでは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○事務局（山岡循環型社会推進課長）　循環型社会推進課長の山岡でございます。

私から、資料の説明をさせていただきます。

まず、右上に資料 1 と書いてある A3 判の資料をご覧ください。

タイトルは、次期計画検討における重点テーマについてでございます。

この資料につきましては、これまで説明してきた内容や皆様から頂いた意見等を整理して、次期計画の検討をこれから進めていく上での重点テーマ案の選定について、1 枚にまとめたものになっております。これまで説明したことの繰り返しになるところもございますが、振り返りも含めて、ご確認いただければと思います。

まず、資料の左上をご覧ください。

改定後の計画における主な取組でございます。

平成 26 年 3 月に改定したスリムシティさっぽろ計画では、生ごみの減量資源化や紙類、容器包装プラスチックの適正排出に重点的に取り組んでおりますが、キャンペーン等を通じて、ここに書いてあるような様々な普及啓発を行ってきております。

そのほか、出前講座のさっぽろクリーンミーティングによる啓発や、更なる資源化の促進に向けまして、小型家電や古着の無料回収の開始、集団資源回収の促進といった取組をしてきたところです。

資料上段の中央にスリムシティさっぽろ計画のごみ量管理目標の達成状況を記載しております。

前回も一通り説明してきたところですが、6 つの目標のうち、上から 4 つ目のリサイクル率の平成 27 年度の実績がまだ出ておりませんでしたけれども、今回、数値として出まして、28.3%と前年度より 0.3 ポイント増えました。最終目標は 30%ですが、最終目標に向かって進んできています。

さらに、目標の上から 3 つ目、家庭から出る生ごみ量ですが、平成 27 年度は 9.9 万トンで、最終目標である 10.4 万トンをクリアしました。

上段の右に移っていただきたいと思います。将来のごみの動向についてです。今後のごみの動向ということで、人口減少や少子高齢化による影響を簡潔に表記したものです。

まず、人口減少におけるごみ量への影響につきましては、次期計画の計画期間の最終年度の平成 39 年度においては、それほど大きく変化しないことが予想されております。しかしながら、今朝の新聞にも昨年の国勢調査の速報が出ておりましたが、高齢化がかなりのスピードで進行しており、この高齢化の進行によって生ごみや紙おむつの増加が懸念されるほか、生前整理、遺品整理による大型ごみや食器類といったまだ使えるものがごみとして多く排出されることが想定されております。また、単身世帯や 2 人世帯が増加するなど、1 世帯当たりの人数が減っていくことで、1 人当たりのごみ量が増加することも考えられております。さらに、容器包装プラスチックについては、今はどのようなものにも使われておりますので、今後、容器包装プラスチックの流通量が増えることに伴って排出量が増加することも予想されます。

それから、資料の下左側ですが、これまで皆様から出た意見を 10 の意見として整理しております。

例えば、一番上の意見としては、衣類のリユースは市民のリサイクル、リユースに目を向けるきっかけになるのではないかという意見が出たところですが、右側に鍵括弧で 2R と書いております。それぞれの意見の後ろでは、キーワードによる項目整理をしたところ です。

1 つずつの意見の紹介は省略しますが、そのような整理を行った結果、右下の図のとおり、一旦、重点テーマ案を 5 つの項目に整理させていただきました。

まず、オレンジ色の発生排出抑制、これがリデュースになりますが、それとリユースの 2 つの R で 2R としております。

それから、右側ですが、青色で生ごみと食品ロス、その右側に緑色で年代別の取組を載せております。そこでは、高齢化が進むということで、高齢者に向けた取組を記載しております。一方では、若年層に対する取組ということで、年代別の取組を記載しております。

その下の段に行きまして、左側の紫色ですが、事業者との連携、その右に赤色で普及啓発としており、以上の 5 つのテーマに整理しております。

この 5 つは、委員の皆様にとっても関心が高く、次期計画の方向性を検討するに当たっての重点テーマになるのではないかと考えております。

この 5 つのテーマは、それぞれ独立したものではなく、関連しておりますので、その関係を表すと、矢印の下の楕円が重なったようなイメージになるのではないかと思います。

例えば、リユースの取組については、クリーニング店での古着回収のような民間事業者との連携による取組もあり、2R と事業者との連携が関連してきます。また、リユースあるいはリサイクルショップの利用割合が低い高齢者に対するリユース促進については、2R と年代別の取組が関連することを示しております。当然、どんな取組をするに当たっても普及啓発が必要だということで、円の重なりというよりは、全体に係る事柄というイメージ図となっております。これから 5 つのテーマを考える際の参考にいただければと思います。

資料 1 の説明は以上になります。

次に、資料 2 をご覧ください。

今申し上げた 5 つのテーマごとに現在の状況について整理した資料になっております。

表の左側に、当初のスリムシティさっぽろ計画を策定した平成 20 年度以降に実施した主な取組を記載しております。右側には、それぞれの項目の現状と課題を記載しております。

星印がついているものにつきましては、昨年度に実施した市民意識調査の結果となっております。

まず、1 ページ目の 2R についてでございます。

先ほども申し上げたように、2R というのは、発生排出抑制のリデュースと再使用のリユースに分けて整理しております。

発生排出抑制につきましては、レジ袋の有料化に関する協定締結や生ごみの水切り、食品ロス削減に向けたキャンペーンなどを実施しております。キャンペーンでは、テレビの

CM 放映やポスター掲出のほか、フェイスブックを活用するなど、様々な媒体を使った普及啓発を実施しております。

こうした取組の結果、マイバッグの持参率については 9 割近くの市民に定着しておりますし、生ごみの減量あるいはリサイクルに取り組む世帯についても 8 割強となっております。

その辺については、右側の現状と課題に表記しております。

リユースについては、リユースプラザを活用した情報発信のほか、古着を無料回収し、衣類として再利用する事業を開始しております。リユースプラザ来場者数は平成 24 年度以降に増え続けておりまして、平成 27 年度の実績は年間 3 万 7 千人にご利用いただいております。

また、古着の回収量につきましては、平成 27 年度は 1,210 トンとなっております。一方で、古着の多くはまだ燃やせるごみとして排出されているのが現状であり、今後の回収量の増が課題となります。

また、リサイクルショップ等を利用している人は 4 割程度であり、年代が高くなると利用していない方の割合が増えておりますので、幅広い年代の利用につなげていくことが課題になると思います。

2R については以上でございます。

続いて、2 ページですが、次の重点テーマになり得る事柄として、生ごみと食品ロスについてでございます。

水切りや食品ロスについては、発生排出抑制と関わる部分もありますので、キャンペーン等は今申し上げたとおりでございます。

次に、生ごみの堆肥化に向けた取組としては、セミナーや講師派遣、機材の購入助成のほか、堆肥化の普及に向けた堆肥と野菜の交換を行っております。

前回の会議において、取組状況についてご質問があったと思います。この資料には数字を載せておりませんが、昨年度の堆肥化セミナーは、30 回開催して、948 人に参加いただいております。講師派遣は 14 回で、439 人に参加していただいております。電動生ごみ処理機は 212 世帯、堆肥化機材購入助成は 274 世帯となっております。

このような取組を重点的にを行い、市民に発生排出抑制や減量に取り組んでいただいた結果、家庭から出る生ごみは、平成 24 年度比で 1 万 5 千トンの大幅な減量を達成し、スリムシティさっぽろ計画の最終目標を達成しました。

しかしながら、生ごみには約 2 割の未開封品と食べ残しが含まれていることから、食品ロスの削減が今後の大事な取組課題になっていくと考えております。

左側の取組状況の一番下に「2510（ニコッと）スマイル宴」を記載しておりますが、この取組は、表の下※にも記載しているとおり、事業所から出る生ごみ減量に向けた取組として、外食時における食べ残しを減らすため、宴会等が始まってから 25 分間、終了前 10 分間は自分の席で出ている料理を楽しむということを習慣づけられないかということで、

まずは札幌市職員が率先的に取り組んでいるところをございまして、今後、市民や企業にも広めていきたいと考えております。

生ごみと食品ロスは以上でございます。

次に、3 ページ目の年代別の取組についてでございます。

こちらは、高齢者と単身者を含む若年層に分けて整理しております。

高齢者向けの取組としては、一定の要件に該当する要介護者や障がい者に対し、玄関先からの収集や大型ごみの運び出しを支援するさわやか収集、他には、文字を大きくしてイラストを主体としたわかりやすいごみ分けガイドを作成しました。今後、高齢化が一層進行することで、食品ロスや生前整理等による大量のごみ排出への対応をどのように行っていくかが課題と考えております。

一方、若年層、単身者については、前回ご意見があったように、大学や専門学校の新入生向けのチラシを作成しており、今年度の新入生に向けては、合わせて1万5千枚ほどを配布しました。また、分別アプリは、平成25年度から配信を始めておりますが、年々利用者が増加しております。今年5月までの累計ダウンロード件数は、約4万5千件となっております。ほかにも、若年層や単身者に限ったものではありませんが、市外転入者が増加する3月末から4月初めには、10の各区役所において転入者向けの啓発も行っているところでございます。しかしながら、適正排出に関しては、若年層や単身者の協力率が低い状況にあり、こうした方々への効果的な啓発が課題になると考えております。

次に、4 ページ目の事業者との連携についてでございます。

こちらは、家庭ごみを減らす取組と事業ごみを減らす取組の2つの観点から整理しております。

まず、家庭ごみを減らす取組については、先ほども説明したレジ袋に関する協定や、スーパー、商業施設、クリーニング店などに資源物の回収拠点を設置していただくなど、事業者の協力を得て取組を進めております。

また、事業ごみを減らす取組については、行政からの指導や啓発だけでなく、すすきのスリムタウン協定や狸小路スリムタウン協定を締結し、商店街等と連携した事業ごみの減量、分別、リサイクルに関する啓発活動を行っております。事業ごみにつきましては、業種によって異なりますが、生ごみや紙類の排出が多い傾向から、こうしたごみ種の減量が課題になっていくと考えております。

これまでも、商店街古紙回収事業による紙類の削減に向けた取組を行っておりますが、今年度からは、新たに見える化システムを構築し、事業者から提出される処理実績報告・減量計画書等によるデータから、ごみの減量・資源化の余地等を診断することで、事業所に対して、処理費用削減効果等と合わせてリサイクルの促進に向けた支援を行うこととしております。

5つのテーマの最後の5 ページ目は、普及啓発についてでございます。

普及啓発については、どのような取組を進める場合にも関わってくることで、継

続した取組が必要になりますし、その中でいかに効果的に行うかが大変重要になるテーマだと思います。

これまでも多くの啓発活動をしており、市民全体に向けたものだけでなく、環境教育の観点から小・中学生向けに実施しておりますし、大学生向け、転入者向け、事業者向けなど、それぞれターゲットを絞って普及啓発を実施してきております。

このような普及啓発の取組の効果により、ごみ量の管理目標がおおむね順調に推移していると考えております。

しかしながら、10 歳代、20 歳代などの若者世代がごみへの関心が低いことや、市全体においても、びん・缶・ペットボトルに比べて雑がみと容器包装プラスチックの分別協力率が依然として低いことが今後の課題と考えております。

資料 2 の説明は以上になります。

最後に、右上に参考資料と書いた両面印刷の 2 枚物の資料をご覧ください。

こちらは、今申しました重点テーマと直接関わるものではありませんが、前回頂いた意見の中で、地域別のごみの排出状況、事業ごみの組成について知りたいといった意見があったことから、今回、その 2 点を参考資料として用意させていただきました。

1 番目は、区別のごみ量についてです。

地域別の詳細なデータはありませんが、区ごとのごみ量の排出状況はデータとしてありますので、それを示したものでございます。

札幌市には 10 区ございますが、清掃事務所単位になるものですから、白石区と厚別区は同じ数字になりますし、豊平区と清田区は同じ、西区と手稲区は同じとなり、7 清掃事務所単位でのデータになります。

区別の平成 27 年度実績のごみ量全体でいいますと、1 ページ目の上に色分けして分類しておりますが、赤い点線が全市平均になります。

下に細かいデータが載っておりますが、ページを開いていただいて、裏のページの上に 4 つのグラフが出てきますけれども、燃やせるごみをご覧ください。

平均より大きく上回っているのは、中央区と南区になります。これは、いろいろな原因があると思いますが、1 ページ目の下に 10 区ごとの高齢化率を載せております。平成 22 年の数字ですので、当然、今はこれよりも数字が上がっておりますが、平成 22 年 10 月 1 日現在の全市平均が 20.5%です。黄色くマーキングしている南区は 10 区の中で一番高齢化が進んでいて、25.7%となっております。それから、1 世帯当たりの人数については、全市平均が 2.11 人に対し、中央区が一番少なく 1.77 人となっております。

この 2 つを黄色くマーキングしておりますが、燃やせるごみが多い 2 区は中央区と南区になっております。中央区は、世帯人数で言うと 10 区の中で一番少なく単身世帯が多いということになりますし、南区は高齢者が多いことが特徴となっておりますので、こういったことが燃やせるごみ量に影響していると考えております。

以下、燃やせないごみ、びん・缶・ペットボトル、容器包装プラスチック、次のページ

に雑がみ、最後には枝・葉・草を掲載しております。枝・葉・草あたりは、区の地域性が出ていていると思います。

これが区別のごみの排出状況になります。

最後に、2 ページ目の裏をご覧ください。

こちらは、事業ごみの組成割合の資料になります。業種ごとに円グラフで示しております。

業種としては、左上から飲食店、縦に見ていくと、その下が事務所、その下がホテル・旅館、右側の列でいくと、上から小売・卸売、病院、食品製造業と6つの業種に分けており、可燃ごみとして排出された事業ごみの組成割合を円グラフで示しております。

調査する事業所数も、ここに書いているように、50 か所から 60 か所と限られておりますし、年度によってばらつきもあることから、平成 25 年度から平成 27 年度の3か年の平均をとったグラフを示させていただきました。ある意味、当然のことですが、左上の飲食店、右下の食品製造業におきましては生ごみの割合が非常に多いということになりますし、左側の真ん中の事務所あるいは右側の病院におきましては紙類が多いという結果になっております。先ほど言いましたように、事業所全体で見た場合も、生ごみと紙類が事業ごみとしては非常に多いことがお分かりいただけるかと思います。

今回用意した資料の説明は以上になります。

○福士会長 どうもありがとうございました。

現行計画は、平成 20 年に策定されて、平成 29 年度までの 10 年間の計画です。それから、平成 21 年 7 月から新ごみルールが施行されて、平成 23 年だったと思いますが、その段階で、最初に立てた最終目標の幾つかのものについては達成したということがあり、平成 26 年に改定計画を立てたときに、より高く目標値を設定し、新たな最終目標を立てております。

今度の計画は、次期計画なので、平成 30 年度からになります。想定されているのは、平成 39 年度までの 10 年間のものだと思います。次期計画を策定するに当たって、今回は、重点テーマを定めて、それを深めていって新たな計画をつくろうということで、事務局から重点テーマについて説明いただきました。これまでの議論を踏まえてまとめたのはこの5つで、2R、生ごみ食品ロス、年代別の取組、事業者との連携、普及啓発です。前回に事務局からご説明がありましたが、できれば2つのグループに分けて議論を深めていこうということで、とりあえず5つのテーマを設定していただいて、ご説明をしていただきました。

それで、本日の議題につきましては、次期一般廃棄物処理基本計画検討における重要テーマを中心にご意見、ご質問をいただければと考えております。

ただ、その前提として、今回は時間がかかなり少なくてご迷惑をおかけしたため、ご質問をお聞きして今回の説明の中で回答していただくということでしたが、回答されていないということが何かあればおっしゃっていただきたいと思います。

（「なし」と発言する者あり）

○富士会長 それでは、本日の重点テーマのご説明を受けて、それに関するご意見、ご質問を中心にお願ひしたいと思ひます。

これについては、いかがでしょうか。

○河崎委員 資料2の1ページと4ページですが、レジ袋の使用の問題です。これは、意識調査の結果から、約9割が買ひ物袋を持参し、レジ袋を使用しないということです。

ただ、ここで疑問に思ふのは、現実の問題として、今、スーパーでは、黙っていればレジ袋を渡さないで、どうしても必要な人はお金を払うという仕組みになっています。これは問題ないと思ひますが、デパートなどでは、黙っていればレジ袋を出してくれます。そして、それを断っている人がいるのかということで見ていると、ほとんどいないわけです。そういう背景がこの意識調査の中に出ている感じがします。

後段で言ったデパートで云々というものを無視すれば、一般のスーパーなどではおむね履行されています。なぜなら、レジ袋が有料化したので、そういう背景のもとにマイバッグを持参していると思ひます。

その辺について、どういう現状認識を持っているか、伺いたひと思ひます。

○事務局（浅山ごみ減量推進担当課長） アンケートの聞き方ですが、買ひ物袋を持参してレジ袋は使用しない人という聞き方をしていて、例えば、デパートでは断っていますかという聞き方をしていません。日常の買ひ物ということで、スーパーなどを思い浮かべて回答している方がほとんどでこの回答率になっていると思ひます。

デパートは、むしろ包んでほしいときに行っているようなところもありますので、デパートで断っている率はどうですかと聞くと、確かに下がると思ひますが、そのようにアンケートをとっていないので、お店別の数値はわかりません。

○河崎委員 ありがとうございます。

私が言いたひことは、スーパーは大分普及してきていると思ふのです。ただ、スーパーでもまれに無料で出すことがあります。これは、協定もあることですが、大いに進めていたきたいです。しかし、特に都心部にあるデパートの場合は、買ひ物客の心理を考えると、レジ袋やマイバッグ持参とは言いづらひと思ひますので、今後はその辺の働きかけをしてもいいと感じました。

意識調査のデータに捉われて、状況がいいのだということではなくて、そういう働きかけも必要ではないかという意見です。

続けて、資料2の1ページでは、生ごみの減量、リサイクルに取り組んでいる世帯は8割強となっております。

そこで、私は意識調査を見たのですが、取り組んでいるのが8割というのは非常に高いと思ひますが、意識調査のどこから分析したのですか。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 生ごみの減量、リサイクルに取り組んでいる世帯が8割強ということですが、星印がついているので、市民意識調査の結果となります。実

は、札幌市では、まちづくり戦略ビジョンに基づき、ごみ減量・資源化に関する市民意識調査と別に、環境に関わらず、いろいろな設問を用意した調査を毎年実施しております。そちらの調査の結果、水切り・堆肥化など何らかの取組をしているかという質問があって、その中で、何もしていないという世帯を引くと、8割くらいの方が何らかの取り組みをしているということでこちらに載せております。ですから、同じ市民意識調査の結果ではないということになります。

○河崎委員 ちょっと気になります。

私は、意識調査はいいと思うのです。ただ、これはあまり関連がないので言いたくなかったのですが、意識調査の一番の問題は、先ほど言ったレジ袋の件でもそうですが、市の意識調査をしようという意識を念頭に置いてやるということです。わかりやすく言えば、いい子になろうとする回答があり得るということで、意識調査と現実とはちょっとずれがあるのではないかという感じがします。

もう1つは、この意識調査の回答率が全部で58%でしたので、42%は回答していません。関心がないから回答しないのであって、関心がない率がかかなり高いような気がするのです。なぜこういうことを言うかということ、ご存じのとおりクリーンさっぽろ衛生推進協議会では地域でいろいろなことをやっていまして、相当数の衛生推進員の皆さんがごみステーションの管理で苦勞されていますし、ごみパト隊も苦勞されています。そういう現実と乖離しているような資料になっているのではないかと思います。

ですから、この資料をもとにデータとするのは大変結構ですが、そういうことも念頭に置きながら、現実を直視していただきたいのです。もっと欲を言えば、衛生推進員の方々の意見も聞いた上で現状を把握するような姿勢も必要ではないかと思います。

また、これも意見ですが、最後の参考資料に区別の高齢化率が載っています。これは、国勢調査の結果だと思います。高齢化率は、ほとんどの区で毎年1ポイントずつ上がっていますので、現実とかなり乖離しています。市では、住基調査に基づいたデータを毎年10月と4月に発表していて、高齢化率が出ていますので、むしろそれを使った方がいいと思います。

例えば、西区の場合、資料では21.4ポイントになっていますが、今は25.いくらかになっていて、4人に1人は高齢者になっています。その現実との乖離があります。確かに、国勢調査の方が絶対的かもしれませんが、ただ、国勢調査と住民基本台帳の取り方の違いはあると思いますし、高齢化率の目安としてこのデータを使って資料をまとめる場合は、まとめた時点で一番新しいデータを使うような工夫をされた方がいいのではないかと思います。

○福士会長 どうもありがとうございました。ご意見として承らせていただきます。

ほかにございませんか。

○石井委員 重点テーマについて、これまでの審議会を踏まえた主なテーマがここに出ておりますが、次回、重点テーマをもう少し詰めるということでした。そこで、今までに議

論がなかった点を幾つか指摘したいと思います。

一つは、前は改定ということだったので、いわゆるマイナーチェンジで、達成している目標は更にどうしようかという感覚で改定をしました。今回は、次期計画ですから、札幌市がどこまで考えているかわからないけれども、フルモデルチェンジという形になるのかと思います。

そのときに、札幌市の廃棄物処理計画が、一応は法定の計画ですが、10 年経ったので、国の状況も社会の状況も変わっています。それから、くしくも、札幌市もごみ減量推進課から循環型社推進課に変わりました。そんなことを加味すると、今の国の動きがどうなっているのかなど、世の中の動きをフォローして計画を立てるべきだと考えます。

そのときに、国では平成 25 年度に第 3 次循環型社会形成推進基本計画をつくりましたし、廃棄物処理施設整備計画も出ておりまして、そこにいろいろな新しい考え方が載っているわけです。そういうものと今回の計画がどういう整合性を持つのかということです。具体的に言うと、何を目指していくのかということです。

今日の資料 1 にごみ量管理目標の達成状況とありますが、こういった指標で本当にいいのかどうか、こういった目標でいいのかどうかということがまず議論されないと、何となく、今までの目標でうまくいったからこれからはいいのだということではなくて、違った目標もあり得るということです。

例えば、国では、ごみ排出量を減らそうと言っています。どういうことかということ、札幌市でいきますと、廃棄ごみ量と資源量と事業系のごみの全部を合わせた量、札幌市が処理しなければいけないごみの全量を減らそうというのがもともとの趣旨です。全量でやってしまうと、市民の取組がわかりづらいから、札幌市は家庭から出てくる廃棄ごみ量と事業系ごみに分けて目標を立てていますが、それでよかったのです。しかし、これからは、2R ということですから、資源ごみを減らさなければいけない、事業系のごみも減らさなければいけない、全部を合わせて減らさなければいけません。こういう形でいろいろな考え方があり、もともとあるものもあれば、いろいろな解釈で少しずつ違っているものがあります。

それから、最近、自治体では、強靱化ということで、災害廃棄物はどうするか、あるいは、エネルギー的に孤立してしまったときにどのようにして災害後の 1 週間を乗り切るかなど、エネルギーの自立も求められています。この分野では、廃棄物やバイオマスなどのエネルギー利用がいろいろなところで検討されています。ですので、指標がどうなのかということとエネルギーがどうなのかということです。

もう 1 つは、コストです。廃棄物の処理コストは、今、札幌市の平均では、大ざっぱな収集でトン当たり 2 万円、処理費でトン当たり 2 万円がかかっています。ですので、トン当たり 4 万円をかけて処理していることになります。

内訳を見てみると、容器包装プラスチックだと収集費がもうちょっと高いとか、びん・缶・ペットボトルだと両方合わせてトン当たり 7 万円ぐらいかかっています。そうすると、

今後も費用として捻出していけるのかどうかといったコスト的な観点も必要です。

今の国の処理施設の整備方針では、効率化と言われています。効率化というのは、コスト効率化もあるし、エネルギー効率化もあるので、いろいろな意味での効率化が叫ばれております。ですから、資料には生ごみ・食品ロスなどいろいろとありますが、そういう個別的なことよりも、今回の計画でフルモデルチェンジをするのであれば、そういった大局的な視点に立って、どういった指標、目標を立てて今後つくっていくべきなのかという取組が必要かと思います。

○富士会長　まさに、新しいステージの計画になるのか、現行の計画はかなりうまくいったという評価なので、それを深化させていくという方向に行くのかということだと思います。10年が経って、それなりに成功したという上に立って、新しいステージの計画を立てていくという選択もあると思います。その辺について、今、石井委員からいろいろなことを挙げていただきましたが、事務局としては何かお考えがありますか。

○事務局（山岡循環型社会推進課長）　計画の位置付けとしては、今の計画は平成29年度までなので、次の計画は全く新たな計画になりますが、次の10年間で何をを目指すのかについて、今、確固たる考えを持っているわけではありません。指標についても、今の6つの指標を踏襲するのがいいのかどうか、それはこれから考えていく必要があると思います。

ただ、この10年間の取組で一定の成果が出ているところもありますし、まだ続けられる取組もあるはずなので、そういうものについては、引き続いて次の計画の中でも取り組んでいく必要があるだろうと考えております。

審議会の皆様には、スケジュールで言うと、今後、2つのテーマでグループごとに検討していただきたいと考えていたのは、そういった大きな考えももちろん必要ですし、むしろそちらが先だというお考えもあると思いますが、ここについてグループの中でいろいろ検討したいということがあるとするれば、そのテーマを取り上げてグループ会議を進めていって、グループでの検討から全体の計画をつくり上げていくという流れを考えております。今、石井委員からお話があった指標をどうするかとか、札幌市は次の10年で何をを目指すのかということについては、これから皆さんと一緒に考えていければいいと思います。

それから、コストについては、我々から言いづらいところがありますし、これまでの議論や説明で漏れていたところだと我々も反省しておりますので、今後、何らかの形でコストの視点からのお話をさせていただければと思っております。

○富士会長　よろしいでしょうか。

○石井委員　部会は部会で重点的なものを議論しながら、それを最後に合わせて1つの計画あるいは答申とする時のつくりとしては、必ず、現状があって、課題があって、次に目指す形があって、目標値があって、それに向けた取組という構成になっているはずなので、必然的に私が言ったようなことをやらなければ絶対にできないようなつくりになっています。ただ、私が今までやっている目標がだめだと言っているわけではなくて、世の中がいろいろ変わってきたので、札幌市で取り入れられる新しい考え方や指標は、いいところ取

りでも構わないので、どんどん入れていくべきではないかというのが僕の考えです。

ですから、だめだと言っているのではなくて、前向きに捉えていただければと思っています。

○富士会長 当然、一般廃棄物処理基本計画をつくるときには、国や道の計画と整合性を保ってつくるとというのが法的な要請になっていて、国の動き、あるいは、国で言っている効率化の指標を入れてつくらないとそういう要請に応えられませんので、必要であれば入れていくということになるのだろーと思います。ただ、ご懸念のとおり、部会を2つに分けてしまうと、うまく整合したものがつくれるかどうかということがあると思います。事務局のお考えとしては、2つのテーマを分けた中で国などの考え方との整合性を保ち、統一した形でつくるようにやっていくということだろーと思います。

また、改定計画のときも新たな達成目標をつくったと思いますし、これが前提ということではなく、必要であれば新たな指標をつくることになると思います。

○富士会長 ほかにございますか。

○草野委員 私も、石井委員の意見に賛成です。2つを選ぶときに、何をもって2つを選んだのかという判断軸が欲しいです。今まで、ごみのことに十何年関わってきて思いますが、目の前のごみをどうしようかというところから始まって、今の石井委員のお話のとおり、大きな世界観と目の前のごみの問題を進めてきているような感覚で、北海道、日本、世界と視野を広げていく必要があると思います。

最近の私の取組で言っているのは、今年1月の世界経済フォーラムで、海のプラスチックごみの量が重量比で2050年に魚の量を上回るということです。これは、衝撃的な話だと思います。つまり、プラスチックは分解するまでかなり時間がかかります。生ごみや新聞紙はすぐに分解されるので、そんなに重量比で残りませんが、プラスチックは海に漂います。そういう数字的なものが出てきたときは、僕たちが発生抑制を呼びかけていくときの大きな動機にもなると思います。そういった視点から、今、僕たちは何を選ぶかというところで、一つはCO2の観点もあると思いますが、発生抑制をどうしていくかは重要な話だと思います。

ですので、どこまで議論できるか、今までの流れもあるので難しいですが、2つにテーマを絞っていくという進め方はそれでいいと思います。ただ、何でその2つなのかというところに理由が欲しいですね。

○河崎委員 非常に細かい話で申し訳ありませんが、札幌市にはまちづくり戦略ビジョンのアクションプランがありますね。これは、短期的なもので平成31年度までの計画です。それに従うということではなくて、そういうものとの整合性を考える余地があればいいし、循環型社会推進という観点では触れていないということであれば我々独自にやっていけばいいのです。

参考までに、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

○事務局(山岡循環型社会推進課長) 今、河崎委員からご質問がありましたが、札幌市の

上位計画である札幌市まちづくり戦略ビジョン、さらに、中期的な計画ということで言えばアクションプランがございます。

まず、中期的な方のアクションプランは、昨年度、平成 27 年度からスタートして 5 年間ですから、平成 31 年度までの計画になります。この 5 年間で見れば、廃棄物行政としてやるべき事柄が入った次の計画に直接つながるようなことにはならないかと思います。

その上位計画である札幌市まちづくり戦略ビジョンにつきましては、当然、その中で循環型社会の構築を大きな目標に掲げております。先ほど石井委員から話があったネーミングの話も、循環型社会推進課に変えたのは、1 つは循環型社会の構築を大きなところで目指すということを受けてのものです。その循環型社会の構築の中で、2 つばかり柱を立てておりまして、廃棄物の減量などを推進するというのが 1 つです。ですから、減量と資源化になります。もう 1 つは、エネルギーの関係でいいますと、高効率なエネルギー回収を推進するというのを 2 つ目の柱にしております。こちらは、清掃工場等における廃棄物の発電や熱利用を推進していくということです。

そのような中で、廃棄物の減量と資源化の推進、高効率なエネルギー回収の推進を掲げております。そういった意味では、この 2 つに沿うことが次の我々の計画で求められることになります。

○福士会長 どうもありがとうございました。

確かに、現行計画の改定計画であれば、ある程度の枠組みが決まっていて、その中で改定のテーマを決めて 2 つのグループで議論していくことになると思います。ただ、新たな計画をつくるという発想に立つと、いきなり 2 つのグループに分けて議論するということがご懸念の点だと思います。私も確かにそう思います。

ただ、計画をつくるときには、国の計画の動向あるいは道の計画の動向、また、札幌市で持っている計画との整合性がありますので、まずはそれをまとめていただいて、その中で議論していくことになるのではないかと思います。

この会議では、次回に 2 つのテーマを決めたいということなので、それができるかどうかは、国などの動向と合わせて、今日の議論も踏まえて、それで納得できるということであればその方向でやっていくし、もっと前段部分の議論が必要なのではないかという話になると、また新たに追加で会議を設けることも必要だと思います。

それでは、次回の会議で 2 つの重点テーマを決めるという方向で議論していただくということによろしいでしょうか。

○石井委員 1 つのアイデアですが、今、僕が言ったようなことをやると、札幌市にも事務局としていろいろな事情があると思います。またそれも大変だと思います。

今、案の中でいろいろなキーワードが出ています。前回の改定ときは、食品廃棄物、生ごみグループと容器包装等の発生抑制のグループが 2 つの大きなグループだったと思います。資料を見た中で、初めは、指標を考えるグループがあってもいいのではないかと考えたこともありましたが、それは大変なので、各グループに分かれて、そこから出てくる

ようなものを吸い上げていって、新たな指標は何か、あるいはコストなど共通的な課題にすればいいと思います。ですから、ある意味で、個別のもので2つのグループに分けなければいけないと思います。

そして、1つ思ったのは、2Rについてです。それは、衣類にしても食品廃棄物にしても容器包装にしても全てに関わってくると思いますが、いわゆる上流側のところです。もう一つは、資源化や処理などの大きなキーワードで分けるということもいいと思います。そうすると、年代別の取組でも2Rの議論ができますし、エネルギーという点では資源化や処理に話が行きます。それから、事業者との連携は両方に関わることだと思います。

そのように、細かいテーマではなく、大きな枠組みで考えられると意外とすっきりすると私は思っていました。フルスペック改定だと、これぐらいの枠組みの方が議論しやすいと思います。

○福士会長 ほかにございますか。

○山本委員 私も、今、石井委員がおっしゃったことでいいと思います。

まちづくり戦略ビジョンのところで2つをおっしゃっていましたが、この計画に目指すべき姿みないものがないのでやりにくいのかなと気になっています。多分、草野委員がおっしゃったような2つがそれに当たるともとれます。そうすると、先ほど石井委員がおっしゃった大きな枠組みで、その2つを議論しましょうという流れにすると進めやすいと思います。

○福士会長 ほかにご意見はございませんか。

石井委員から、もう一度、ご説明をお願いできませんか。

○石井委員 あくまでもキーワードだけ言いますので、議事録等で整理されて、事務局の方でまとめてください。

1つ目は、2Rという発生抑制や排出抑制、分別するところまで、2つ目は、収集後に当たる資源化するとか、容器包装をリサイクルするとか、焼却処理をするとか、もっと新しい方法で生ごみのリサイクルをやっていこうとか、大きく2つのイメージでやればいいと思います。

例えば、容器包装や高齢化の話、若年層の協力率の悪さの話は2Rグループです。それから、この間言いましたが、排出抑制については、資源化ごみの有料化もあります。そういうことも含めれば、それも2Rです。また、今日の話題には出てきておりませんが、最終処分場には小型家電のようなものが随分埋まっていますので、そういったものも2Rに入ってくる可能性があると思います。そのように、市民の取組でできるようなものが2R的な要素です。

それから、札幌市に集まった後、いかにコストを安くするか、エネルギーも効率よくやっていくのだということを考えるのが資源化や処理の議論です。今、札幌市では、焼却炉で処理していますが、駒岡に新しい清掃工場を建てることを計画していて、次は発寒です。それに向けて、可燃ごみを減らして焼却規模が小さくなるということは、それだけ安く済

みます。

それから、今進めている RDF 化というのは、厚別で燃料として使われて、皆さんの暖房に使われています。また、駒岡にも地域暖房の熱導管が入っていますので、あそこでつくる熱は熱利用されています。ですから、次につくる札幌市の新しい焼却炉も、もっと熱を使いたいとか、そういった議論もできるのではないかと考えると、今のような2つの分け方で、夢も語らいながらやれば良いと考えております。

○赤城委員 前回はお休みさせていただいたので、ちょっとついて行けないながら伺っていましたが、今の石井委員のご発言を聞いていて、発生抑制のインプットを1つのくくりにして、排出抑制のアウトプットを1つのくくりにして、さらに間の家にため込んであるものの流動化を促進するようなどの3つに分けられると思います。インプットと滞留しているものの流動化とアウトプットの3つがイメージとして浮かびました。

○福士会長 どうもありがとうございます。

ごみの流動化ということでしょうか。

○赤城委員 滞留しているものを流動化させてごみではなくするというか、家にたまっているものを流動化させて活性化させるということです。

○福士会長 ごみではなくするということですね。

今の石井委員のアイデアについて、もしご質問がある方がいれば、ご質問いただければと思います。

○遊佐委員 国の計画などを言うていただきまして、本当にありがとうございます。

今回の熊本地震のときに、いかに分別するかについて、市民の中で重要性が増したということがあります。とにかく悪臭がすごいのです。生ごみの悪臭や木くずなど、雨が降った後、それが乾いて、別なものと一緒になってものすごい状態になっていて、それを早く分別しなければなりません、地震と大雨の区別で仮置き場が大変です。

河崎委員が言うように、私も、ここに来て、ごみステーションの清掃などをしました。やっぱり、結構な臭いがするのです。実際にやってみて思うのですが、あくまでも市民が動きやすいような行動計画にしてもらいたいということが一つあります。

それから、危機感もありながら、これをやることによって楽しみもあるということが重要だと思います。例えば、将来、市民税が下がるとか、子どもにとってメリットがあるとか、そういう要素もちょっと含めながら、人の心にうまく訴えかけるような仕組みづくりも大事だと感じております。

私自身、これを進めていただけるのはありがたいと思っています。

先ほどありましたが、ごみをいかにして減らして、それをまた再利用していくという流動化についても、家庭の中で楽しくできるという一つの方法があります。そういう意味で、誰でも参加できるようなやり方などがこの中で見え隠れするようなども大事ななと感じました。

○福士会長 そういう計画がつくられたら非常にいいですね。

ほかにございますか。

○永井委員 私は、一番下のエンドユーザーにつながっている立場として、お話の中の参考になればと思って発言させていただきます。

私自身、整理収納アドバイザーとして、実際にお困りのお客様宅に伺って作業しています。先ほど、滞留しているものをいかに有効化するかという話がありましたが、まさにそういった物件に直面している次第です。今、私個人に助けを求めている方は5件いらっしゃるまして、その5件はみんなそれぞれ違った悩みを抱えています。

1件は、自分自身で物をため込んでしまって、マンションに住んでおりますが、同じフロアに2軒の家を所有して、1軒は物置として使っていました。でも、高齢のご両親が東京にいらっしゃるって、一緒に住むのにどうしてもその1軒を空けなければいけないということで依頼を受けて入りました。使えるものもあれば使えないものがあるって、お客様自身がどうしたいのかということ、その場所を空けたいということもありますが、まだまだ物に執着しているというところも見られます。

そして、直面するのは、お金になります。処分をするとなると、業者も一緒に行って見積もっていただきましたが、最低限、自分たちで何とかできない大型のものを処分してもらうということで見積もってもらったところでも7、8万円かかります。それでも、私が入る中では安い方です。2DKの整理に関わる業者に入ってもらったところでも、大体20万円前後かかります。それを安いと捉えるか高いと捉えるかということですが、その料金でも高いというお話でした。

しかし、持って行ってもらわなければいけません。その後、空けるためには、大量のものの分別をしなければいけません。それで、できるだけ安く上げるには、札幌市が収集するごみに出すという選択になります。資源化したいということもありますが、料金的にそこに踏み込めないという方が多くいらっしゃるのも現状だと思います。

そういった方には、リユースプラザをお勧めしています。あとは、木工製品の大型ごみは資源化されて、有効化されるという方法もお伝えしておりますが、ごみステーションまで運ぶのが難しいという現状もあります。そのようなところをクリアできれば、家の中に滞留しているものがもっと出ていくのではないかと思います。

それから、きっかけづくりということで、不用品を有効なものに変えるための物々交流会やリサイクルイベントを年2回ほど立ち上げております。今後は8月に予定しておりますが、毎回、関心が高く、参加していらっしゃる方にとっては、家で眠っていたものが再生できるということで喜んでいただいておりますが、まだまだそういったところの認知が少ないというところも今後の課題だと思います。

ということで、現状のお話をさせていただきました。

○福士会長 どうもありがとうございました。

今、はやっている片づけ、シンプルな生活ということですね。

ほかになにかございませんか。

○草野委員 ちょっと違う視点になるかもしれませんが、重点テーマを2つに絞って話していく中で、2Rの話から、市民にどう浸透させていこうかという話が出てくると思います。これは恐らく普及啓発になると思いますが、1つ大事だと思っております。

この中に、事業者との連携というキーワードが入っていると思いますが、普及啓発は札幌市が市民に対して直接訴えていくという話ではなくて、事業者に協力していただいて、そこから広げていくということをもう少しやっていった方がいいと思います。ビリヤードの玉を突くような感じです。札幌市が事業者にこういう広報を協力できないかというところをどんどん増やしていくということです。

例えば、若い人であればカラオケボックスなどに集まりますので、そこから発信できないかということです。直接啓発していくと、どうしてもコストがかかりますし、対象が絞り切れないという課題もあると思います。

それから、事業者も巻き込むことのもう1つのメリットとして、家庭ごみと事業系ごみの違いを実感するのはアルバイトに行った瞬間です。ですので、若者に伝えるときも、若者の家庭を直接攻めるのではなくて、事業者として関わっている人へのメッセージの伝え方を工夫すると、費用対効果もよくなるのではないかと思います。

先ほどの大きなテーマでいいと思いますが、視点として普及啓発を入れてほしいと思います。チラシを配るとか講座をするということになると、効果が見えにくくなると思いますので、少し違う切り口が必要ではないかと思います。

○福士会長 事業者に協力してもらおうという視点は非常に重要だと思います。

ほかに何かございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○福士会長 特になければ、石井委員、赤城委員からご提案がありましたが、今の議論を踏まえて、2つのテーマに絞って、2つの会議を設定して議論していただくということになります。そのときに、次回までに、国や道、札幌市の計画の位置付けをはっきりさせていただいた上で、こういう2つのテーマの設定の仕方があるのではないかという整理をしていただくとうわかりやすいと思います。

ほかにご意見がありましたらお願いします。

（「なし」と発言する者あり）

○福士会長 それでは、もしなければ、今日の審議を終了させていただきます。

それでは、次回の審議会の日程と進め方について、事務局から説明をお願いします。

○事務局(山岡循環型社会推進課長) 本日は、大変意義深い議論をしていただきまして、ありがとうございました。

また、我々はスケジュール優先で考えているところがありまして、今回、2つのグループ会議を設けよう、テーマは何にしようかというところに先走ってしまいました。次の計画で札幌市は一体何をを目指すのかとか、国の動向あるいは札幌市の上位計画の整合性の関係をきちんと整理した上でテーマを絞るべきではないかというのはまさにそのとおりです。

その辺を含めて、次回の会議までに、今回はこういうテーマでこの2つにするということを決めたいと思います。テーマは今日出た2つのアイデアになろうかと思いますが、次回、そういうことを説明させていただいた上で、当初の予定どおり、テーマを2つ決めていただいて、9月からグループ会議に入っていきたいと思っております。

今後も、引き続きよろしく願いいたしまして、事務的なスケジュールの説明をさせていただきます。

○事務局（高橋企画係長） それでは、次回審議会の日程についてですが、委員の皆様には既に出欠状況を確認させていただいております。その中で、一番多くの方にご参加いただけるというお返事をいただきました7月27日水曜日の午前中とさせていただきたいと考えております。

時間や場所については後ほどご連絡させていただきたいと思いますが、7月27日水曜日の午前中のご出席をよろしくお願いいたします。

また、今、山岡から話がありましたように、次回の審議会では、9月から11月にかけてのグループ会議で議論するテーマ、グループ分けについてご審議いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

○福士会長 ただいまのご説明、また、本日のご審議に関して、何かご質問はございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

3. 閉 会

○福士会長 それでは、これで第8期札幌市廃棄物減量等推進審議会の第4回本会議を終了させていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上